

# わかぐさ

W A K A K U S A

伸びよう伸ばそう青少年 ～心豊かな青少年を育てるために～



〈題名〉むしとなかよし あずま東小学校 1年 しのだ あおい 篠田 葵彩 さん



発行 ≫ 青少年育成稲敷市民会議  
事務局 ≫ 稲敷市教育委員会  
生涯学習課内  
TEL 029-892-2000 (代)  
会員数 ≫ 7,526世帯 (令和8年2月現在)

# 令和7年度 第19回 稲敷市 青少年の主張大会

## ダイジェスト



令和7年11月15日(土)、江戸崎中央公民館において、第19回稲敷市青少年の主張大会が開催されました。

小学生、中学生、高校生が日常生活の中で感じたことや考えていること、自信と誇りを持って将来に向かっていくことなど、それぞれの思いを堂々と力強い主張を発表していました。

発表者の胸元には、江戸崎総合高等学校グリーンテクノ系列の生徒が制作したクリスマスのコサージュと、大切に育てた4種類のとてもきれいなポインセチアがステージを明るく装飾しました。

### 未来を担う青少年の声をお聞きください

#### 小学生の部

#### ① 差別について思うこと

沼里小 五年 松田 結太

たくさんさんの差別がある中で、ぼくが少し気になった差別は、性的マイノリティーに対する差別です。LGBTQの人たちへの差別とも言われるこの差別は、どうして起きるのでしょうか。

ぼくは、このLGBTQの人たちというのは、様々な個性をもっている人たちだと思います。異性にこだわらず、色々な人を好きになれる人、性別にこだわらず、見かけやファッションを楽しむことができる人なのだと思います。

ぼくは、差別を減らしていくため、日頃からどんなことが差別になってしまうのか周りの人たちと話し合う場を多く作りたいと思います。

次に、差別に苦しんでいる人たちに、「自分の悩みを、信頼できる人や家族、身近な人たちに相談していこう」と呼びかけます。

人はそれぞれ違う個性をもっています。生まれつき肌の色が違ったり、障がいがあったりする人もいます。みんなが幸せに暮らすために、相手と一緒に過ごすことで、相手のことをよく理解し合うことがとても大切だと思います。



#### ② だれもが幸せだと 思える世界を目指して

高田小 六年 飯沼 ひより

わたしは、戦争のない世界にしたいです。今の平和な日本は、過去の人たちの苦しみの上にあるのだと知りました。だから、わたしは、「もう二度と戦争をくり返してはいけない」そう強く思いました。しかし、今でも世界ではまだ、戦争が続いています。戦争のせいで、学校に行けない子どもたちや、兵士にされてしまった子どもたちもいます。本当は、楽しく遊んだり、友達と笑ったりするはずなのに。

わたしは、平和を守るためには、ただ「平和であってほしい」と願うだけではないかと学びました。わたしたち一人一人が、積極的に行動しなければ、平和は実現しないと思います。わたしにもできることがあるはずです。例えば、戦争のことや世界の現状を知り、周りの人たちに伝えることです。もし、そのことを知らなかった人が「こんなことが起きているんだ」と思ってくれたら、それだけでも希望になると思います。

わたしは、力で問題を解決するのではなく、言葉で向き合うことこそ、平和の第一歩だと考えます。

#### ③ いらぬ人なんていないよ

桜川小 六年 真下 千佳

私にとって友達は、「いつでも相談し合

える関係」だと思えます。そう考えるのは、私が五年生のときに、友達に相談して悩みを聞いてもらい、心が軽くなった経験があるからです。

しかし、この世界には、相談できずに自殺してしまう人がたくさんいます。

私は、成長するにつれて相談相手が親から友達に変わっていくことで、深刻な悩みや不安などを抱えていても、友達には相談できないケースが増えているのではないかと考えています。

自分のことよりも、目の前で困っていたり、悩んでいたりにいる友達のために、少しでも力になってあげられる関係こそが、本当の「友達」と呼べるのではないのでしょうか。

私は友達に相談できる環境を整えることが自殺ゼロの世界により近付くと思っています。

私たちができることは、友達との信頼関係を築き上げ深めていくこと、友達がいつもと違う表情や言葉、態度のとき気付けてあげること、そして声をかけて味方になってあげることだと思います。

#### 4 言葉づかいの世界

あずま西小 五年 坂本 陽茉莉

先日、休み時間に友達とサッカーをして遊んでいました。そのとき、私がボールをけり損ねてしまい、ボールは思いもよらない方向に飛んでいってしまいました。思わず「あー、ごめん！」と叫びま

した。すると、友達の一人がかけ寄ってきて、言いました。「大丈夫！ナイスチャレンジ！切り替えて、もう一回やろう！」と、笑顔で私の肩をポンとたたいてくれたのです。その言葉は、私を温かい気持ちにしてくれました。

この経験を通して、私は言葉がもつ不思議な力に気づきました。優しい言葉は、相手を安心させ、自分自身の心も温かくしてくれます。反対に、乱暴な言葉は、相手を傷つけ、けんかの原因になってしまいます。言葉は、人と人をつなぐ大切なツールであると同時に、使い方をまちがえると、人間関係をこわしてしまいうこともあるのです。

私は、相手の気持ちを考えて、優しい言葉を選びたいです。私一人の力は小さいかもしれませんが、私から始まる優しいの輪が、少しずつ広がっていくと信じています。



#### 中学生の部

#### 5 自分らしさを探し求めて

江戸崎中 二年 椎名 桃子

「あなたの個性は何ですか?」と聞かれると、胸を張って言えるものがないので、私は答えに迷ってしまいます。

「自分は何の個性もないのでは?」と考えてしまいます。しかし、自分には個性がないと感じているのは私だけではないと思います。だから私は、個性がないと感じてしまう理由を考えてみることにしました。まず、自分と他者を比べてしまうことです。上には上がいる。このように思うてしまう人が多いと思います。また、個性を發揮してよいのか悩む人も多いでしょう。人間は集団で生活しています。集団の中で同調圧力を感じて悩む人も多く、私も人前に立つことが苦手です。私にも好きなことや夢中になれることはいくつかあります。絵を描いたり、ギターの練習をしたり、星を見て宇宙の不思議さを想像したり。こうした小さなことも、もしかしたら個性の芽生えなのかもしれません。

まだ個性が見つからないことに不安もあります。自分の中に眠っている個性を見つけられるチャンスでもあると考えると、正直ワクワクします。私はこれからの学校生活や、たくさんの人たちとの出会いの中で、少しずつ自分らしさに目を向け、個性を見つけていきたいです。

#### 6 言葉の力

新利根中 二年 宮本 快

僕はスマホを持っていません。一年生の時、理由を聞いてみると母は、「言葉を上手に使えない子どもが、文章だけでやりとりをしたら、必ずトラブルが起きて友達をなくすようなことになるから。」と言うのです。

SNSの誹謗中傷による自殺や事件という言葉を耳にする機会がありました。動画投稿サイトや書き込みサイトでも誹謗中傷の言葉が多くなって、事件に発展している場合もありました。

「批判」は人の言動などの誤りを指摘し、正すべきであるとして論じることです。一方、「誹謗中傷」は根拠のない悪口を言いふらして、他人の名誉を損なう行いのことです。

言葉は、誰かを支える力にもなるし、誰かを殺してしまうナイフにもなります。言葉は扱い方が難しい「道具」なのではないかと思っています。

スマホを持つようになったらナイフのような言葉で、人を傷つけることのないように心がけたいです。言葉を上手に選んで会話をしたり、誰かを励ましたり、勇気づける言葉をかけたり、自分の感情をコントロールしながら使っていきたいと思っています。



## 7 私たちと世界の平和

桜川中 二年 水銅 未笑

今も世界では、戦争や紛争が続いている国があります。皆さんはそのことを知っているでしょうか。

戦争や紛争が起こる原因には、民族や宗教の違い、資源の奪い合い、政治への不満、領土問題などがあります。

私は、小学六年生の時に予科練平和記念館を訪れたことで、戦争の悲惨さをより深く知ることができました。

では、今の私たちが他国の戦争や紛争を終わらせるために、何ができるのでしょうか。まずは、世界で起きている問題に関心をもち、他人事にならないことが大切だと考えます。そして、十八歳になったら選挙に参加し、自分の意見を伝えることも一つの方法です。

また、身近な人に思いやりをもって接することも、平和につながる第一歩です。相手の気持ちを考えたり、いじめを減らしたりすることができれば、うれしい気持ちになる人が増え、その人がまた他の人に優しくなれるかもしれません。そうした優しさの連鎖が広がれば社会全体が穏やかになり、平和な環境が生まれると思います。

## 8 違いを強みにできる社会へ

東中 二年 服部 美伶

「制服は誰にとっても平等なもの。」私は、ずっとそう思っていました。でも、あ

るアニメを見てから、そうではないと気がきました。

「性別違和」という言葉を知ってから、自分らしく生きることが、とても勇気のあることだと思いました。また、当たり前前の形は人それぞれだと気がきました。その時に、性別で決まっている制服は、自分らしさを否定されてしまうように思いました。

また、私が特に気になっていることは、「男女のからかい」です。「男なのに背低いね」とか「女なのに俺って言うてるの？」など、からかわれている場面を何度か見たことがあります。冗談のつもりでからかっているかもしれないけれど、言われた本人はとても傷ついていると思います。

私は、自分らしさを大切にすることは、個性を守ることにつながっていると思います。だから、すべての人に「自分らしさって何だろう」と、自分の性格や価値観を考えてほしいです。

### 高校生の部

## 9 大切にすべきこと

江戸崎総合高 二年 坂上 瞳羽

私は、人より行動が遅く発言もうまくできないし体調を崩しやすく、周りの人に気を使わせてしまうことがたくさんあったし、内気な性格のせいで友達もあまりできなくて悩むことがたくさんありました。ですが、中学と高校で私のことを理解してくれる友達に出会うことがで

きました。相談に乗る、話を聞くだけでもいいからしてあげるなどして関係を保っています。

私は、いじめられたこともあります。言われたことは覚えていて、やられたことも覚えていて。やった本人には、罪の重さをしっかりと理解し、すべき行動や発言をして、問題をしっかりと解決することをしたいかなと、いじめは無くならないと思います。

自分のことを理解してくれる人に対しての感謝や、自分の相手を理解する努力、いじめられている人を助けること、助けを求めたことの大切さを私は今まで経験してきました。経験したことを頭で考えるのは簡単だが、行動にすぐ移すのは難しいです。ですが、いじめられてる人に分じや何もできなくても声を掛ける勇氣も大切です。

## 10 命の偉大さ

江戸崎総合高 二年 嶋野 くらら

私が遊んでいる時、一本の電話がかかってきました。「お父さんが倒れた。救急車で運ぶから、すぐに来て。」

病院で見たお父さんは、もう意識がなく、たくさんの機械につながれていました。何がどうなっているのか分からず、ただ涙がこぼれてきました。「今日と明日は覚悟してください」とお医者さんに言われました。



奇跡のように、お父さんはその二日間を生き抜いてくれました。しかし、その安堵もつかの間、翌日には再び危篤状態となり、冷たくなった手を握りしめながら、私は「こんなお父さんを見たくなかった」と胸が張り裂けそうになりました。そんな中で臓器移植の話が出ました。家族で涙を流しながら何度も話し合い、臓器を提供することを決断しました。お父さんの臓器は二人の方に移植され、その方たちは「生きられる喜び」を心から語ってくださいました。

命は一度失えば二度と戻ってきません。でも、臓器移植によって命はつながり、希望を与えることができます。日本には臓器移植を待っている人がたくさんいます。私はこれから、命と向き合うこと、臓器移植について考えることを決して後回しにしないと心に誓いました。

● 主張大会で発表した作文の全文が掲載された作文集が、市役所庁舎、各公民館、図書館にあります。ぜひご覧ください。

第11回

稲敷市子ども会育成連合会  
青少年育成稲敷市民会議

# ボランティア清掃活動

こんな所にも  
あったよ!



2月7日(土)は、115名の方々にご参加いただき、江戸崎総合運動公園周辺の清掃活動を行いました。数日前から当日は雪模様になるという予報を耳にし、心配していました。やはり、朝からの寒気に毛糸帽、マフラー、手袋をして集合場所に向かいました。歩く途中、偶然、同じ場所に行く人がいて乗せていただき、集合場所に着くと、寒い中でも元気いっぱい子どもたちは集合してくれました。

川の町で有名な江戸崎の地、大正元年に架けられた風情のある大正橋(昔は木製)を渡り、1班・2班に分かれゴミ拾いを行いました。私はかつて江戸崎町役場のあった裏手の桜堤の方を歩きました。



越冬のためやって来ている鴨の群れが水尾を曳きながら楽しそうに遊んでいました。川べりは危険なので近づかないよう子どもたちに伝え、みかんの皮を拾おうとする子に「それは土に還るものだから拾わなくても大丈夫だよ」と言うお父さんの声が聞こえてきました。

以前に比べ目立ったゴミはあまりありませんでしたが、心無い飼い主が犬の落とし物の処理をしていないことがとても残念でした。「立つ鳥跡を濁さず」という言葉があるように一人一人が環境意識を高く持ち、行動してほしいものです。このボランティア清掃活動を通して地域への環境美化の精神、ひいては地球を守る小さな行いがやがて大きな未来への良い結果へつながることを期待したいものです。帰り際には予報通りの雪がちらちら降り始めました。寒い中、ボランティア清掃活動に参加していただいた方々ありがとうございました。(篠田)



# 毎月第3日曜日は 「家庭の日」

茨城県では家族のきずな、家庭の養育力の重要性について、県民のみなさまにご理解をいただくため、昭和40年7月より、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、「明るい茶の間運動」として、普及啓発を行っており、平成17年度からは、「家庭の日」フォーラム等を開催し、家庭、学校および地域など、あらゆる場において、広く働きかけています。

みなさまも、「家庭の日」には、家族そろって食事や買い物をしたり、スポーツ・レクリエーションを楽しんだり、家族で過ごす時間をできるだけ増やしてみてください。

## 令和7年度「家庭の日」絵画・ポスター 作品紹介



「おたんじょうびおめでとう!」

あずま東小学校 3年 益子 ひまり



「トランプ最高!」

あずま東小学校 3年 本戸 瑞祥



「なりたゆめぼくじょうのひまわりばたけにいったよ」

高田小学校 1年 石井 耀太

テーマは「家庭の日」を周知・啓発する内容、家族で過ごした思い出などを描いた作品になっています。

来年もたくさんのご応募をお待ちしています。



「みんなでやきゅう」  
まつだ ももか  
高田小学校 1年 松田 百加



「かぞくなかよし」  
なかがわ せい か  
高田小学校 1年 仲川 青夏



「花火大会」  
かとり なる み  
あずま西小学校 3年 香取 成美



「おきなわの海」  
むかいだ えま  
あずま西小学校 3年 向田 瑛真



「家族のきずな」  
わたなべ みくろ  
あずま東小学校 4年 渡邊 美空瑠



「きれいな川」  
いしだ りょうた  
あずま西小学校 3年 石田 椋大

令和7年度

# あいさつ運動等活動報告

青少年育成稲敷市民会議では、「あいさつには“あい”がある」をテーマに市内小・中学校で市内の各団体のみなさまにもご協力いただき、あいさつ運動を実施しております。今年度は、7月に延べ297名、11月に延べ343名の方にご参加いただきました。あいさつは、人と人とのつながりのスタートでもあり、青少年を健全に育成するために必要不可欠な基本です。今後も継続して事業を行うにあたり、来年度もみなさまの益々のご理解とご協力をお願いいたします。



江戸崎中学校



新利根中学校



桜川小学校



あずま北小学校

青少年育成稲敷市民会議では、青少年の健全育成を目的とした4種類の啓発のぼり旗を作成し、10月に市内園・小・中・高校へ配布しました。

WAKAKUSA  
2026.03 No.39

## 編集後記



一つ一つの競技に感動的な瞬間を見せてくれたイタリアミラノ・コルティナ冬季オリンピックも幕を閉じ種々な場面がそれぞれの心に深く残ったことでしょう。

冬芽も音を立てず新しい芽へと育っていく中、二月だというのに夏のようにひどく暑い日があったり、数日後には都内で約四カ月ぶりの雨が降ったり(各地では恵みの雨となったようだが)、南米ペルーでは夏の雨季のため豪雨で土砂崩れがあり多数の死者が出たというニュース。

ニュースにならない所でも、胸の痛むことが沢山あり、どれもこれも助けることはできないが、せめて手の届く距離であるならば手を貸し寄り添い五感を働かせて歩み寄っていききたいものです。

どうぞ身近な子どもたちのためにあなたかな一言をかけてやってください。ほんのひとときの出会いでも・・・

外に出ねば会へぬきらめき春の星

篠田 啓子(広報部長)

和田 克典

糸賀 妙子

寺崎 久美子

白田 京子